

2014年度 活動報告 & 2015年度 活動計画

20年間継続してきたヒマラヤ山麓植樹が2014年夏100万本に到達しました！引き続き環境保全活動に力を入れ、現地に笑顔を増やす活動をします。皆様のご協力とご支援をお願い致します。



1. 2014年度 現地活動報告

—植林事業「生活林」づくり、収入向上事業—

1-1. 「生活林」づくり—約6万3千本の植樹を達成！

「生活林」とは日本でいう里山に相当する林をいいます。2014年度は、あわせて8万9,988本の苗木を植樹しました。植林地域と苗数内訳は、ダウラギリ地域（ドバ村10,922本・ベガコーラ村6,925本・ダグナム村6,913本・ジーン村9,447本・バランジャ村15,243本）、アンナプルナ地域（サリジャ村7,338本）、ソルクープ地域（ジュビン地区カリコーラ村約33,200本）でした。今年の植林で総数106万5,679本の植樹を終えたことになり、中期目標としていたネパール・ヒマラヤ山麓への、100万本の植樹という目標を達成しました。

1-2. ダウラギリ・プロジェクト

ネパール西部ダウラギリ地域において、植林・森林保全・森林資源利用・収入向上などの協力要請が地元から出されたことを受け、ヒマラヤ保全協会は「生活林」づくりの経験と技術を活用してこれに応えてきました。2014年度は、くるみ、山椒など、将来、実が収穫されると、山村民の収入になる果樹などの苗の育成に力をいれました。

具体的な活動は以下の通りでした。

- ① ダウラギリ6村それぞれが問題点を明確化しました。
- ② 各事業村をモニタリングし、育苗数ターゲットを達成するよう支援体制を強化しました。
- ③ 植林地を調査・選定しました。
- ④ 植林地に苗木を植樹しました。
- ⑤ 100万本達成記念会を国際環境デー（2014年6月5日）に現地ネパールで開催し、ネパール政府関係者、地元村落住民約150人が集まり、日本の「里山（サトヤマ）」という「森と人との持続可能な循環関係」をあらためてヒマラヤ山麓の村民たちに伝えました。（地元新聞テレビ等で報道）
- ⑥ 動物の食害から苗木をまもるフェンスをつくりました。

1-3. ソルクーンブ・プロジェクト

ネパール東部、ソルクーンブ郡カリコーラ村の苗畑で、将来材木として使える松やソウル、薪や飼料木として使えるウツティスなど、約3万3,200本の苗木を植樹しました。ソルクーンブ・プロジェクトは、公共の土地への植樹をほぼ終了するため2014年の植樹にて終了となりました。

1-4. 現地住民の収入向上事業

昨年に引き続き今年度も、ダウラギリ地域では、当協会の植樹事業で植樹後、おおきく成長した森林資源を利用して、女性達を対象にした地産事業推進の支援活動をすすめました。昨年度に生産物を市場に結びつける取り組みを行った結果、今年度は昨年度の約3倍の売上げとなり、女性達の笑顔が見える大きな成果を出す事ができました。また、この収入向上事業の成果を聞きつけた近隣の村の女性が多く習いに来ようになり、8つのグループに技術の伝達がされた事が調査の結果わかりました。



具体的な活動は以下の通りでした。

生活向上プロジェクト

（織物事業）

- ① マーケットからのニーズ、品質向上・管理に関して指導しました。
- ② 昨年度提携をした、近郊の大きな町の女性支援団体との関係を良好にいくよう調整しました。
- ③ サリジャ村の織り地をつかったバッグを10種、考案しました。
- ④ サリジャ村周辺の村への織物技術の広がりに関して現地調査をしました。
- ⑤ 8グループの女性リーダー交流勉強会を催しました。
- ⑥ 各団体の状況調査として、問題点を洗い出し、今後の展望を協議しました。

(紙漉き事業)

- ① 森林資源を活用した生産物に関してミーティングし、村民と現状をふりかえりました。
- ② 昨年度開催したトレーニングにより作れるようになった製品の品質を見直しました。
- ③ 女性リーダー交流勉強会を催し、他の団体の活動を視察し今後の展望を考えました。
- ⑦ 昨年度提携した、近郊の大きな町の女性支援団体との関係を良好にいくよう調整しました。
- ④ 専門家を投入して新しい製品の開発を試み、製品にバラエティがうまれました。

(養蜂事業)

昨年、養蜂事業取り組みを開始したベガ村で、巣分けなどがうまくいかなかった参加者を含め、おさらいをするリフレッシュトレーニングが行われました。新しい巣箱20箱が支給されました。リフレッシュトレーニングではヒマラヤ保全協会オリジナルの指導書が作成、配布され、理論と実技との構成で、両村ともに、5日間に渡って行われました。これらは、住民の食生活の向上とともに、将来的には販売して収入向上につなげていきます。

2. 2014年国内事業報告

2-1. 国際交流・理解促進事業

第22回ネパール・ヒマラヤ山岳エコロジースクールを2015年2月20日～3月4日の13日間開催しました。参加者は昨年に引き続き、定員一杯の10名でした。当会の事業の見学、果樹の植樹等をおこないながら環境保全活動の体験をしてもらいました。現地の人達と交流し、国際協力の観点からの相互理解を深めました。トルコ航空機がカトマンズ国際空港の着陸を失敗した影響で、帰国予定が遅れましたが、参加者、関係者の皆様にもご理解とご協力を頂き、無事帰国する事ができました。

2-2. 広報・地球市民学習事業

- 今年度達成したネパール・ヒマラヤ山麓植樹100万本を記念して、7月25-26日、1泊2日、長野県駒ヶ根市で記念会を開催し、JICA駒ヶ根、ネパール市民交流会（駒ヶ根市NPO）、協力隊を育てる会などの皆様と会員が交流しました。
- ヒマラヤ保全協会が支援しているネパール、ポカラのWSDO（Women's skill development organization）の女性代表を10月20-25日、日本に迎え、会員と一般向けの現地活動報告会をシャプラニールさんと共催しました(10月22日)。
- 同じくWSDOの女性代表を10月23-24日、長野県駒ヶ根市にお連れし、JICA駒ヶ根と駒ヶ根市長に表敬訪問をしました（地元新聞に掲載）
- ご支援頂いている株式会社アミナコレクションさんのご協力を頂き、グローバルフェスタ、長野県駒ヶ根市のみなこいワールドフェスタに出展し、活動の理解促進を図りました。
- JICA駒ヶ根の交流イベントにて駐日ネパール大使のアテンド、海外青年協力隊候補生たちと交流、活動報告をしました。（10月25-26日）。
- 長野県松本市主催のネパール交流25周年記念会に招待を受け、ヒマラヤ保全協会の活動報告をしました。（11月1日）
- 国際協力に興味を持つ幅広い方に利用頂けるよう、ホームページを新しく作り直しました。
- 会報「シャングリラ」の内容の見直しをし、現地村落住民の方の声や、収入向上事業の進捗状況など、現地の温度感が伝わるような内容に変更しました。100万本植樹達成時は発行2回分をまとめて特大号を発行しました。

2-3. ネットワーク・研究・提言

(1) ネットワーク

ネパールNGOネットワーク（4N）がソーシャルネットワークとなり、独立しました。国際協力NGOセンター(JANIC)とシーズ（市民活動を支える制度をつくる会）に会員として参画しました。

NGO事務局長が集う、「事務局長会」に参加し、情報収集やNGO同士の横の繋がりを図りました。

(2) 研究・提言

植林事業を基盤とした、生活改善・収入向上事業を支援し、持続可能な循環社会の実現を実践に基づいて調査研究しました。現地での聞き取り調査を徹底し、草の根の視点からの調査、分析を図り、問題解決を推進し、サリジャ村の織物事業の成功例など、成果が出始めています。

■ 2015年度事業計画

組織基盤の強化に関する事業

◆ IHCのマーケティング開始

IHC事業のマーケティングに取り組み、事業の魅力と社会での価値を高めます。

◆ 自主事業準備開始

IHCの事業そのものや、そこから生まれて来た商品を支援者に「参加」、もしくは「購入」していただく機能を取り入れ、組織自体の自立を目指します。

1. 2015年現地事業

1-1. ダウラギリ・プロジェクト

◆各事業村の【未来計画】づくり

- ① JPP事業(JICA草の根技術協力事業)の終了に伴い、各村でKJ法を使って未来計画を立てます。
- ② 各村の未来計画を受け、ヒマラヤ保全協会で協議、今後の事業計画を策定します。
- ③ 自主事業として継続希望の村は、実現に向けて問題点を明確にし、解決策を検討します。
- ④ 植林事業の支援継続希望村は予算を見積もりヒマラヤ保全協会に提出。ヒマラヤ保全協会はそれをうけ事業の続行を検討します。
- ⑤ 各村の未来計画を試行。ヒマラヤ保全協会は各村をモニタリングし、計画達成を促します。

◆各事業村の植林地測量とデータ化

- ① 植林測量の専門家を派遣しGPSによる測量の技術を現地フィールドスタッフに伝えます。
- ② 専門家の指導のもと、現地フィールドスタッフと現地住民とで植林地の測量を行います。
- ③ 専門家がデータを収集し、視覚化します。

1-2. 生活改善・収入向上事業の推進

織物事業（現在約9割達成）・紙漉き事業（現在約7-8割達成）・養蜂事業（現在約5-6割達成）

- ① 植林事業から得た繊維を使って収入事業を立ち上げた、これまでの事業の質的価値と、成果を視覚化します（ビデオ動画・ホームページなど）

- ② 実際にあがった収入の数値的データを視覚化します（グラフ制作）
- ③ 事業が行われた事によって起こった変化や成果に関して地元住民からの定量データを取り、解析します。

1-3. ネパール大地震支援計画

- ① ネパール大地震後の被災が発生し、発生直後より義援金を集め、緊急支援を行いました。（ゴルカ郡：テント及びブルーシート配布、ドラカ郡：毛布、医薬品配布）
- ② ヒマラヤ保全協会は今後の長期復興支援（5年）を計画しています。

2. 国内事業

2-1. 国際交流・理解促進事業

第23回ネパール・ヒマラヤ山岳エコロジースクールを2016年2月（予定）に開催します。当協会の事業の開始から成果を実際に現地で体験するスタディツアー、内容の充実を図ります。

2-2. 広報・地球市民学習事業

◆ 広報推進

Facebookと会報を能動的な広報手段としてより一層強化します。

ホームページは、現地事業地6村の活動アーカイブを特集して、現地活動情報を充実させます。

◆ 地球市民交流事業

「木育」という地震復興支援と「日本のフォークロア」

- ・ 岩手県釜石市の地震と津波の被災後4年から学ぶ（1泊2日）：三陸ひとつなぎ自然教室さん
- ・ GHT：グレートヒマラヤトレイルという楽しみ方：Monsoonさん
- ・ 東日本大震災後の「木育」という取り組み：東京おもちゃ美術館さん
- ・ オモシロおかしくてやめられない社会問題への取り組み方：全国スギドラケ倶楽部さん

イベント

- ・ 長野県高校での活動講演会：長野県伊那市伊那北高校全校生徒、教職員、保護者総勢800人
- ・ 山笑いヨガ（ $\geq \nabla \leq$ ）グロフェス10月第1週
- ・ 栃木県 鹿沼ぶつつけ祭り10月第2週（江戸時代から続く手彫りの木製御神輿でのお神楽合戦）
- ・ 長野県駒ヶ根市 みなこいワールドフェスタ10月第3週

2-3. ネットワーク・研究・提言

（1）ネットワーク

日本の国内企業・他の国際協力NGO団体と活動状況をシェアし、協働事業を推進します。

（2）研究・提言

ヒマラヤ保全協会創立者：川喜田二郎のアクション・リサーチの手法を基盤に、常に現地の目線での国際協力のあり方を追求して参りました。今後は、日本の国内企業などと連携し、ネパールと日本の双方に利益を産む事業を研究模索し、提言して参ります。

謝辞

会員の皆様のご支援、誠にありがとうございました

2014年度は、世界の屋根ネパール、ヒマラヤに100万本の植樹を達成することができ、ヒマラヤの自然環境を保全するとともに、地域住民の生活を改善することに大きく貢献することができました。事業の一番大きな成果は、体験を通して実感してもらった「里山（サトヤマ）」という「思想」が地元の人に伝達できたことでした。ご支援ご協力頂きました会員

の皆様の御厚意に心より御礼申し上げます。

さて、4月25日に発生した地震により、多くの方が被災されました。震災直後から、会員の皆様をはじめ沢山の方々から義援金をお寄せ頂き、ヒマラヤ保全協会は、現地の連携団体とともに、緊急支援を行いました。緊急支援を一段落と見られる今、今後の事業、被災者支援を考えた際、現地から聞こえて来たのは、「毎日が不安で心が落ち着かない」という声でした。そこで、私達は、今後は「木育」というテーマで、「木」のポテンシャルを有効活用した被災者の心のケアを事業として立ち上げる計画をしています。

ネパールには、ヒマラヤ保全協会がこれまで長い歳月をかけて育てて来た苗畑、試行錯誤のすえ豊かな経験知を得た苗畑管理人や現地フィールドスタッフという人的財産があります。地震では多くの樹々が土砂とともに流され、景観が一変した被災地が多くあります。育てて来た苗畑や人的財産を有効活用し、現地の方に貢献出来る国際協力活動をしていこうと計画しています。皆様のご参加もお待ちしております！

何卒、今後とも引き続き、ヒマラヤ保全協会の活動にご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2015年6月6日発行

編集・発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7 シグマロイヤルハイツ403

TEL/FAX:03-5350-8458 E-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org>